第125号
2025/10

PVかながわ ニュースレター

Report

ソーラーカーポートで再エネ拡大
～ホームセンターのソーラーカーポート視察～

相模原市のホームセンター、ユニディ相模大野店の駐車場にソーラーパネルの屋根ができました。このような大きなソーラーカーポートは市内ではめずらしく、視察させていただきました。

出力は201.6kW（ソーラーカーポート64台分）、2024年12月より運転を開始しました。想定自家消費は年間203,206kWh、91.6tのCO_2排出を削減する見通しだそうです。発電した電力はすべて店舗内で消費し、店舗全体の電力使用量の20.7%をこの発電で賄っているとのことです。

施工・管理はしろくま電力㈱で、しろくまカーポートとして多くの施工をしています。コンクリートの基礎を作らず柱を深く埋め込むなどの独自の工法で、部分ごとの工事や工期の短縮が可能だそうです。前面に柱がなく駐車がスムーズにできます。雨天時の利便性だけでなく、夏の遮熱対策にも大いに活躍します。ソーラーパネルは両面で発電するタイプです。

当初PPA（再エネの発電事業者と電力を必要とする需要家が電気の売買契約を結ぶ仕組みで、需要家は設備設置費用が不要）による設置と思っていましたが、ユニディさんによる自費設置でした。施工したしろくま電力さんの話ではお客様の自己投資による設置としろくま電力のPPAの割合は現在半々くらいだそうです。

ユニディさんからは「太陽光発電の投資は必ず回収できる。条件が合う店舗がある場合はこれからも設置を考えている。」、しろくま電力さんからは「単に東京の会社が来て太陽光発電を設置したというのでなく、地元にお金が落ちる仕組みがいいと考えている。地域でフロントに立ってくれるような事業所、地域新電力との連携ができるといい。相模原市には未利用の土地があり、可能性を感じる。電気料金が今後安くなることは考えにくく、電気の自給を考えるのが現実的である。」といったお話があり、大いに共感しました。

環境省にはソーラーカーポートの補助制度もあります。建物の屋上にソーラーパネルを設置する場合は耐荷重の課題もありますが、駐車場はその心配はありません。ソーラーカーポートを再エネ拡大のひとつの方法として相模原市内でどのように展開していくことができるか、今後検討をしていきたいと考えています。

（北村記）

世話人から

10月以降の予定

「さがみはら市民活動フェスタ」
（アースクールさがみはらに協力）
日時：10月5日（日）9:30–14:30
会場：淵野辺公園
内容：ソーラーパネル、ミニバッテリー、ソーラークッカー展示

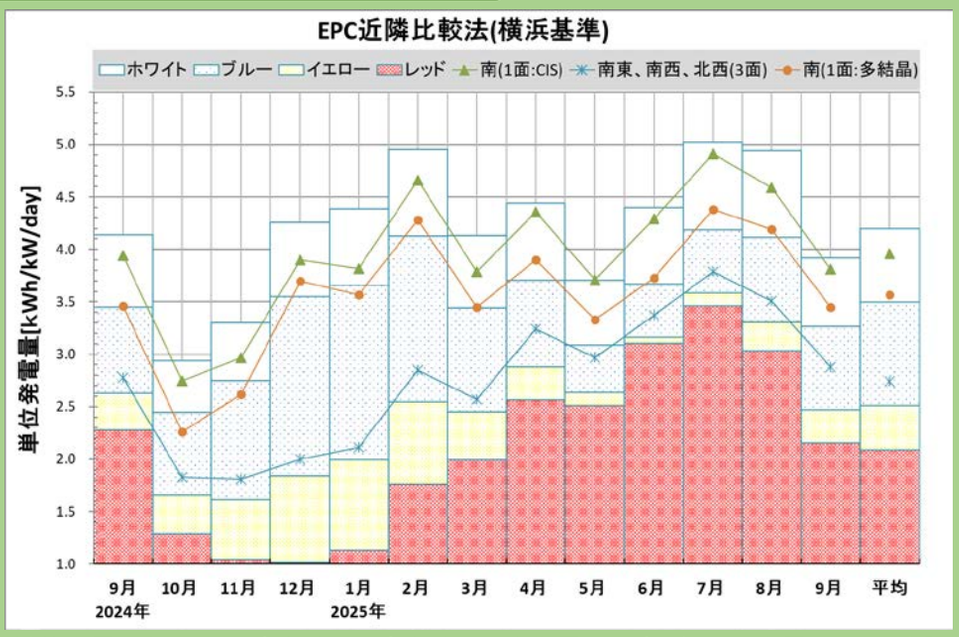
「地球温暖化○×クイズとソーラーランタン工作」
日時：①10月7日（火）午前中
②11月6日（木）午前中
会場：相模原市内小学校2校
対象：各校3年生2クラス

「旭ふれあい区民まつり」
日時：10月19日（日）10:00–15:00
会場：旭区役所駐車場及鶴ヶ峰商店街協同組合駐車場内

「泉区民ふれあいまつり」
日時：11月3日（月）10:00–14:00
会場：和泉遊水池3池、4池
両区民まつり共横浜市地球温暖化対策推進協議会で確保

「出前発電所Zero!」
第41回ワークショップ
日時：12月14日（日） 13:20～
会場：かるがも（星川駅）3F
（参加者場集中！）

今月の単位発電量！



横浜の9月平均気温は、4年連続で平年より高く、平年差+2.9℃でした。気象庁によると9月は「日本付近では偏西風が平年より北に偏って流れ、全国的に暖かい空気に覆われ月平均気温は全国的にかなり高かった。天気は数日の周期で変わり、上旬は東・西日本を中心に、下旬は北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。上旬前半は台風15号の影響で、西・東日本太平洋側では大雨となった。上旬後半から中旬はじめにかけて、本州付近に停滞した前線の影響で九州北部を中心に記録的な大雨となり、その後も本州付近を低気圧や前線が数日の周期で通過し、北海道地方や日本海側を中心に大雨となった所もあったが、移動性高気圧に覆われやすかった東日本太平洋側では、月降水量は少なく、月間日照時間は多かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。